

# サステナビリティ経営方針

2026年4月

株式会社桜井鉄工所

代表取締役 宇佐美 智之

# サステナビリティへの対応

## ◆サステナビリティへのアプローチ方法は以下の通りです。

- ・「社会性」や「事業性」の視点から、自社や自社を含めたサプライチェーン、さらには地域社会の「サステナビリティ」の向上を実現するために取り組むべき課題をピックアップしています。
- ・そのピックアップした課題の中で、「サステナビリティ」に特に効果・影響のある課題を【重要課題(マテリアリティ)】として選定しています。経営目標やアクションプランを定め、具体的に取り組むことで、自社の持続的な成長や持続可能な社会の形成を実現します。

## ◆サステナビリティ経営方針策定において、以下の内容を実施しています。

### 事業性の視点

- ・ビジネス面の情報整理  
当社の事業実績や事業特性等から当社事業のSDGsとの相関性や取り組み内容を整理するとともに、ビジネス面における課題を整理しています。

### 社会性の視点

- ・SDGs取り組み評価  
当社のSDGs取り組み状況やステークホルダーへの影響を整理するとともに、SDGsの取り組みにあたり、その課題を整理しています。

### マテリアリティの選定

- ・取り組み効果の検討  
「社会性」と「事業性」の視点から、サステナビリティへの取り組み効果を検討しています。
- ・マテリアリティの選定  
サステナビリティへの効果を踏まえ、マテリアリティを選定しています。

### マテリアリティへの取り組み

- ・アクションプランやKPIの設定  
アクションプランやKPI等(目標と指標)を設定することで、計画的かつ効率的・効果的にマテリアリティに対応します。
- ・社会、経済価値の創出  
マテリアリティへの対応によるサステナビリティ経営を通じ、持続可能な社会を実現します。

# サステナビリティ経営方針

## 世界の状況と企業への期待

現在、世界は気候変動等の環境問題の深刻化、格差や貧困の拡大、感染症の拡大、紛争の勃発等、難題に直面しており、企業を取り巻く環境も急速に変化、多様化、複雑化しています。その様な状況のもと、当社は企業には「持続可能(サステナビリティ)な社会の実現」に貢献する社会的責任があると認識し、環境負荷低減、人権尊重等に取り組んでおります。また、近年、SDGsへの関心の高まり等、社会課題の解決に向けた企業への期待も高まっております。

## 当社事業の意義

当社は地域の経済・社会活動の基盤ともいえる水門等の水利施設・設備の設計、製造から保守・メンテナンスまでを一貫して対応しており、豊かな街づくり、安心・安全な街づくりに貢献しています。

## 今回の検討結果

当社は地域の経済・社会活動の基盤づくりに貢献している。一方、持続的な成長のためには、人手不足が深刻化する中で、従業員がいきいきと活躍できる環境を整備し、事業継続リスクの低減を図り、製品の安定供給を確保することが必要です。また、環境課題への対応として、温室効果ガスの削減や省資源・省エネルギーに取り組むとともに、地域の持続的な発展に貢献する活動にも注力することが重要と考えます。そこで、次の四つの課題を重要課題(マテリアリティ)として取り組みを充実させ、強化してまいります。

\*\*\* マテリアリティ \*\*\*

働きやすい職場  
環境の整備・人  
財育成

事業継続リスク  
の低減

環境負荷の低減

地域貢献・社会  
貢献

# サステナビリティへの具体的な取り組み

## マテリアリティ

### 働きやすい職場環境の整備・ 人財育成

#### 選定理由

従業員がやりがいをもっていきいきと働くことのできる職場環境を整備するとともに人財育成に取り組むことは、持続可能な成長に寄与することからマテリアリティに選定。

#### アクションプラン

- 各種休暇制度の周知・休暇取得状況の把握と取得奨励
- 資格取得・更新、資格講座受講に対する助成の拡充
- 技能継承のためのマニュアルの整備
- 設計・積算効率化のための設計図面のデジタル化

#### 取り組み効果

- 従業員満足度の向上
- 人材の確保・定着
- 生産性の向上



#### KPI(目標と指標)

- 年間有給休暇取得率の向上(対前年比増)
- 2026年までに「生き生き健康事業所宣言(協会けんぽ)」を実施
- 2027年までに資格取得等に対する助成制度を拡充。
- 2026年までに技能継承のためのマニュアルの整備を実施
- 2028年までに設計図面のデジタル化を実施

## マテリアリティ

### 事業継続リスクの低減

#### 選定理由

事業遂行上で想定されるリスクに対する対策の整備に取り組むことは、持続可能な成長に寄与することからマテリアリティに選定。

#### アクションプラン

- 経営理念・経営目標の明文化
- コンプライアンスに関する従業員の意識啓発
- 事業継続リスクの洗い出し・対応策の検討

#### 取り組み効果

- 事業継続力の向上
- 企業信用力の向上



#### KPI(目標と指標)

- 2027年までに経営理念・経営目標を明文化
- コンプライアンスに関する研修の実施(年1回)
- 2027年までに事業継続力強化計画を策定
- 2027年までにセキュリティ対策自己宣言の実施

# サステナビリティへの具体的な取り組み

マテリアリティ

## 環境負荷の低減

選定理由

省資源・省エネルギー、環境に配慮した製品の利用に取り組むことは、持続的な成長に寄与することからマテリアリティに選定。

アクションプラン

- ・ エネルギー使用量・温室効果ガス排出量の把握・削減目標設定
- ・ 省エネルギー設備・機器の導入
- ・ 紙利用の削減と再生紙の利用推進

取り組み効果

- ・ カーボンニュートラルの実現
- ・ 競争優位性の向上



KPI(目標と指標)

- ・ 2027年までに温室効果ガス排出量削減目標を設定。
- ・ 紙購入費の削減(対売上高比率で前年度を下回る)

マテリアリティ

## 地域貢献・社会貢献

選定理由

地域課題・社会課題の解決に取り組むことは、持続可能な成長に寄与することからマテリアリティに選定。

アクションプラン

- ・ 地域の自治体・自治会等との対話の実施
- ・ 地域への寄付の実施
- ・ 地元人材の積極的な採用
- ・ 災害対策工事・復旧工事への積極対応

取り組み効果

- ・ 地域社会との信頼関係の深化
- ・ 人材の確保・定着
- ・ 従業員満足度の向上



KPI(目標と指標)

- ・ 地域イベントに対する寄付の実施(年1回以上)
- ・ 農業用水路等の清掃活動の実施
- ・ (月1回以上(5月～10月))
- ・ 地元小学校向け新聞への協賛(年1回)